

しい」と、相手の立場に立つた接し方が重要だと話しました。

見えないから見えたことは？辛くても必ず光が差す時が来ると信じて―。

では、竹内さんはこれまでどんな人生を送ってきたのでしょうか。

「目が見えなくなつたこと。最愛の長男の死など、辛いことも経験したが、それらの不幸を埋めても余りある幸運にも巡り合えた。皆さんと同じ人生を歩んできた」と竹内さんは振り返ります。

竹内さんが生まれたのは、終戦前の中国。日本に帰国する際、彼に最初の不幸が降りかかります。帰国船の中で40度を超える高熱を出し、命と引き換えに右目の視力と左目の視力の大半を失ってしまったのです。

それがきっかけで小学校ではいじめの標的となつてしまします。そんな竹内さんを支えたのは生来の負けん気と両親への熱い思いでした。特に、視力を失った時に感じた母親の涙と悲しみに、もう2度と同じ思い

をさせたくない決心します。

「子は親のために死ぬるか？親は自分の子どものためならいつでもどこでもそれができる」と竹内さんは話します。そして、いじめによる子どもの自殺にふれ、「自分の命は自分のものだけではない。その体の中に、両親、家族の命を抱えて生きているということをお忘れないでほしい」「一人で抱え込まずに、自分がそうしたように周りを巻き込み、みんなの問題」にすることが大事」と強く訴えました。

それこそ、目が見えなくなつたから気づけたことと竹内さんは話します。

この悲しみが一生続くと思うから絶望してしまふ。その後には必ず「生きてよかった」「瞬間がきつと来ると信じること―。竹内さんは、小学生の時にわずかに残っていた左目の視力も失ってしましますが、その思いが原動力となり、大切な家族の支えや多くの人との出会いの中で教師の道へ。その後の人生を歩むこととなります。

社会は人の力でいくらでも変えられる。優しい目と心で人権を大切にしてほしい

講演の中で障がい者を取り巻くさまざまな課題にもふれた竹内さん。家やアパートを借りる場合や保険に加入する場合などに制限があると指摘。「これまで障がい者自身の問題」とされてきたものが、ようやく「社会の問題」になりつつある」としつつ、「困らせるのは人であり社会。人の力で解決できるものだ

theme 2

人を思いやる心を育てたい。 “各小中学校、高校、保育所の取り組み”

【根雨小学校】

今年度、主な取り組みとして次のような活動を行っています。

●地域の皆さんとの交流

10月4日、鳥取県立ろう学校ひまわり分校のコーディネートで「手話教室」を行いました。これは毎年行っている取り組みですが、今年度は根雨の藤原正治さん夫妻を招き、直接手話を教えていただきながら交流しました。児童も頑

けでも解決してほしい」と訴えました。

また、会場に向け3つのメッセージを送りました。

①「周りに障がい者がいる家族がいたら、温かい目で見守れる、励まされる人であってほしい」

②「人をいじめて困らせる子どもより、人に感謝される子どもを育ててほしい」

③「たくさん学んで力をつけ、家族や仲間、地域のために自分を生かせる人になってほしい」

張って手話であいさつや自分の名前を伝えました。

藤原さん夫妻とは、すでに



▲藤原さん夫妻との交流

竹内さんは障がい者となつてしまった自分の運命をしっかりと受け入れ、その中で見えたものを私たちに教えてくれた気がします。最後に、竹内さんはこんな言葉を残し、講演を締めくくりました。

「どんなささいなことでもいい。障がい者のためにあなたの力を使つてほしい。優しい目と心が向けられる人。これを「人権を大事にする」という言葉で表すんです」

に隣保館が行っている榎の実学習会で交流していた児童もあり、スムーズに授業に取り組むことができました。

地域の皆さんとの交流を通して、障がい者をはじめとするさまざまな人権問題にふれながら、自分で考え行動できるよう少しずつでも進んでいきたいと思っています。

●日野町人権・同和教育推進協議会保学部会研修会

10月18日、保学部会研修

会を開催しました。午前中はひのっこ保育所で公開保育、午後は根雨小学校で算数の授業公開、それに全体会を行いました。

研修会には黒坂小学校や日野中学校をはじめ、日野高校、保育所の先生にも集まってもらい、授業の参観やグループ討議を行いました。



▲各学校連携しながらより良い授業づくりを

た。今後は、簡単なアンケートを実施し、児童の様子を把握しながら、その対応や日ごろの取り組みに生かしていきたいと考えています。

本校では「算数」を先導教科として研究に取り組んでいます。算数に限らず友だちに進んで関わりながら自分の考えを深め、まとめたり伝えたりできる児童

の育成を目指していきます。

このほかにも10月下旬にPTA同和教育推進部の交流会を開催、2月には人権教育参観日などを予定しています。

【黒坂小学校】

●交流学習

いろいろな人との出会いを通して、さまざまな人権問題や生き方について考える取り組みを行っています。「手話教室」では、「ありがとうの花」という歌に手話をつけてもらい、全校で歌に合わせてできるよう練習しました。

5・6年生は根雨小学校と合同で「車いすバスケットボール体験」をしました。子どもたちはバスケット



▲競技の難しさと魅力を体感

トボール用の車いすにはじめて乗ったのですが、すぐ

に慣れゲームを楽しみました。車いすバスケットボール協会の福永幸男さんは、「あなたの近所にも身近に障がいのある人はいるよ。いろいろな人と触れあうことでどうしたらみんなが住みよい町になるかを考えてみよう」と、子どもたちに語りかけていました。

5年生の総合的な学習では、鳥取ハーネスの会の田渕ひとみさんに盲導犬について教えていただきました。子どもたちは事前に盲導犬について調べていましたが、実際にお話を聞いて初めて気付くことも多かったようです。

●人権教育参観日

人権教育参観日では、授業公開の後、「もつと知ろう 盲導犬のこと」と題し、田渕ひとみさんに講演していただきました。講演会に参加した保護者からは、「盲導犬はとても賢くて感心した」などの感想が聞かれました。

●学力の向上

一人一人の児童が主体的に学習に取り組むことで確かな学力を身に付けられるよう、授業改善と家庭学習の充実

を図っています。特に、授業ではめあてを持ち、自分の考えを自分の言葉で表現できる子どもを育てていくことを目指しています。家庭学習では全員が自主学習に取り組み、使用するノートが10冊を超える児童もいます。自己実現のために確かな学力をつけていきたいと学校全体で取り組んでいます。

【日野中学校】

●人権弁論大会

毎年、10月中旬に学級ごとで弁論発表を行っています。今年は17日に各学級で、日ごろ生徒たちが感じていることや、弁論作成にあたって自分に向き合って考えたことなどをテーマに発表をしています。一人一人の発表の後、それによってどのような感じたか、どのような思いを持ったかなどを出し合い、人権についての考えを深めるようにしています。

人権弁論の取り組みは、生徒自身が人権について考えるだけでなく、学級での人間関係を深めることができるよい機会になっています。

なお、本校文化祭では、学級の代表に選ばれた生徒が発表を行っています。さ

らに日野郡中学校文化祭でも代表の生徒が発表を行いました。

●文化祭での学級人権劇

毎年、学年ごとに脚本を選び、人権をテーマにした演劇を行っています。友だちや家族のきずなをテーマにしたものや、いじめなど周りとかかわり方を考えるものなどがよく選ばれています。

今年度は、1年生と2年生がはじめをテーマにした劇を、3年生は命の尊さをテーマにした劇を披露しました。

●人権教育参観日

毎年11月に行っています。今年は11月22日の午後に行う予定です。五限目に各学級でそれぞれテーマを設定した学習を行い、その後、学年ごとに懇談会を実施する予定です。

【ひのっこ保育所】

●「運動」「食育」「絵本」をテーマに

子どもたちが心身ともに健やかに育っていくには、基本的な生活習慣が大切です。ひのっこ保育所では、毎日の生活の中でさまざまな取り組みを行っています。